

## 重点目標を達成するための今年度の取組と評価基準

A 重点	C短期経営目標(年度末までにどのような状態にするか)	具体的な方策	具体的な取組		成果	
			評語	取組に関する指標 (可能な限り数値で)	評語	成果指標(可能な限り数値で)
1 知 (確かな学力)	個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を図る。学習したことがよくわかり楽しく学習している児童を90%以上とする。	一人一台タブレットと学習アプリMonoxerの活用による授業改善・授業改革の研究に取り組む。  学習におけるICT機器・学習アプリの活用、学習状況の把握と適切な指導・支援を行う。	A	他分科会とも協力し学校全体で取組んだ	A	児童の肯定的評価90%以上
			B	年間をととして学年で取組んだ	B	児童の肯定的評価85%以上
2 徳 (豊かな人間性)	自信のあるところとないところを含め、自分自身にだいたい満足している児童を80%以上とする。	良さに【気付く・見付ける・感じる】そして【伝える・認める・褒める】取組を年間をととして、児童の自己評価を育て高める。  発達段階の理解、自己評価についての啓蒙、自己評価を高める具体的な事例など、学校だよりや学年・学級だより、ホームページなどあらゆる手段を使って家庭・地域と共有する。	A	児童とともに日常的に取組んだ	A	児童の肯定的評価80%以上かつ6年生70%以上
			B	日常的に意識して取組んだ	B	児童の肯定的評価80%以上
3 体 (健康・体力)	体を動かして遊んだり運動したりすることは楽しい児童を90%以上とする。	互いを知り尊重し合うためのコミュニケーションや対話のスキルや能力を向上させる。  いじめ防止標語・ポスター作成、あいさつ運動などの児童活動を行い、いじめ防止を常に児童に意識付ける。  各児童の道徳振り返りシート等を用いて学習状況や道徳性に係る成長の様子を捉え、適切な評価と指導を重ねることにより児童の自尊感情を高める。	A	日常の授業や活動に取り入れて実施した	A	自分90%以上、友達95%以上
			B	SST等の取組を年3回以上行った	A'	自分85%以上、友達90%以上
4 働き方	時間外勤務の上限について月45時間、年間360時間とする。	庶務事務システムを活用し業務量の適切な管理を図り、各自が自己の月ごとの勤務時間を把握し、次月の計画・改善に生かす。	A	年間をととして動く楽しさを味わわせる工夫をした	A	児童の肯定的評価90%以上かつ「とても」が75%以上
			B	休みの取組を行った	B	児童の肯定的評価90%以上
5 連携	教科指導において発達段階や学びの連続性を踏まえた意図的・計画的な指導を構築する。	連携小学校間で教科の1単位時間での学習の進め方やノート指導等について改善し共有、実践することによって児童が中学での学習にスムーズに取り組めるようにする。	A	必要に応じて家庭と連携して取組んだ	C	自分75%以上、友達85%以上
			B	日常的に個に応じた指導を行った	D	自分75%未満、友達85%未満
3 体 (健康・体力)	健康に気を付けて、元気に生活している児童を95%以上とする。	心と体の関係についての体験的学習の充実(保健・心と体)  スクールカウンセラー・心の教室相談員との連携、生活指導の情報共有と個に応じた統一した支援を行う。	A	年間をととして体験学習を適宜行った	A	児童の肯定的評価95%以上
			B	心と体の関係について指導した	B	児童の肯定的評価90%以上
3 体 (健康・体力)	安全に気を付けて生活している児童を95%以上、困ったことや悩みがあったらだれかに話したり相談したりできる児童を80%以上とする。	交通安全教室(4月)、セーフティ教室(12月)の実施と学年に応じた指導。  SOSの出し方に関する教育を全学年で発達段階に応じて系統的に実施(特に長期休業日前)  情報モラルについて外部機関を活用するなど全学年で生活に生きる指導を実施(7月)  系統的な防災体験学習の実施と家庭への啓蒙による日常的な行動の習得(9月の土曜授業公開日に実施)	A	全体で統一した支援となるよう取組んだ	C	児童の肯定的評価85%以上
			B	SC等とも共有して取組んだ	D	児童の肯定的評価80%以上
4 働き方	時間外勤務の上限について月45時間、年間360時間とする。	庶務事務システムを活用し業務量の適切な管理を図り、各自が自己の月ごとの勤務時間を把握し、次月の計画・改善に生かす。	A	年間をととして適切に指導した	A	安全に気を付けて95%以上相談できる80%以上
			B	学年で共有化した指導を行った	A'	安全に気を付けて95%以上相談できる75%以上
5 連携	教科指導において発達段階や学びの連続性を踏まえた意図的・計画的な指導を構築する。	連携小学校間で教科の1単位時間での学習の進め方やノート指導等について改善し共有、実践することによって児童が中学での学習にスムーズに取り組めるようにする。	A	年間をととして適切に指導した	B	安全に気を付けて90%以上相談できる75%以上
			B	重点時期に確実に指導した	B'	安全に気を付けて90%以上相談できる70%以上
4 働き方	時間外勤務の上限について月45時間、年間360時間とする。	庶務事務システムを活用し業務量の適切な管理を図り、各自が自己の月ごとの勤務時間を把握し、次月の計画・改善に生かす。	A	年間をととして適切に指導した	C	安全に気を付けて90%以上相談できる65%以上
			B	学年で共有化した指導を行った	C'	安全に気を付けて85%以上相談できる65%以上
5 連携	教科指導において発達段階や学びの連続性を踏まえた意図的・計画的な指導を構築する。	連携小学校間で教科の1単位時間での学習の進め方やノート指導等について改善し共有、実践することによって児童が中学での学習にスムーズに取り組めるようにする。	A	年間をととして適切に指導した	D	安全に気を付けて85%未満相談できる65%未満
			B	学習内容を家庭と共有した		
4 働き方	時間外勤務の上限について月45時間、年間360時間とする。	庶務事務システムを活用し業務量の適切な管理を図り、各自が自己の月ごとの勤務時間を把握し、次月の計画・改善に生かす。	A	月途中で総計を確認しながら勤務した	A	年360時間以下の教職員が90%
			B	前月の結果を次月に生かした	B	年360時間以下の教職員が70%
5 連携	教科指導において発達段階や学びの連続性を踏まえた意図的・計画的な指導を構築する。	連携小学校間で教科の1単位時間での学習の進め方やノート指導等について改善し共有、実践することによって児童が中学での学習にスムーズに取り組めるようにする。	A	小学2校で協議検討した	A	複数教科で統一したものを作成できた
			B	小学2校で取組む体制を確立した	B	一教科で統一したものを作成できた
4 働き方	時間外勤務の上限について月45時間、年間360時間とする。	庶務事務システムを活用し業務量の適切な管理を図り、各自が自己の月ごとの勤務時間を把握し、次月の計画・改善に生かす。	A	早く退勤する日を決めて勤務した	C	年360時間以下の教職員が50%
			B	十分な取組ができなかった	D	年360時間以下の教職員が30%
5 連携	教科指導において発達段階や学びの連続性を踏まえた意図的・計画的な指導を構築する。	連携小学校間で教科の1単位時間での学習の進め方やノート指導等について改善し共有、実践することによって児童が中学での学習にスムーズに取り組めるようにする。	A	自校で改善に向けた具体を検討した	C	改善に向けて共通理解ができた
			B	十分な取組ができなかった	D	十分な取組とならなかった